

成田剣道連盟だより

発行：成田剣道連盟 広報委員会
Tel：0476-42-6294

コロナの影響が小さくなったり大きくなったりを繰り返している昨今ですが、今号はしばらく大会や錬成会を見ることを制限されている皆様に大会観戦記をご紹介します。

大会観戦記

普及委員長

秋葉 正孝

第8回成田剣道連盟会長杯争奪剣道選手権大会小学生の部

兼 第70回千葉県地区連盟対抗剣道優勝大会

小学生の部 成田剣道連盟選考会

8月27日（土）、成田市民体育館で標記の大会が3年ぶりに開催されました。

成田剣道連盟所属の桜台剣友会、若竹スポーツ少年団、玉造剣友会、下総剣友会、富士スポーツ少年団、北総中央剣友会、加良部剣道愛好会、白井剣道スポーツ少年団、成邱剣志会、文武育成会、成田剣友会、慈心塾の12団体44名の申し込みがあり、当日欠席1名、43名の出場でありました。

初めに、予選リーグ戦として4名を基準とした11グループに分け、総当たり勝ち得点方式により、各グループ上位2名までが決勝トーナメント戦に進出です。

各団体5名までという出場枠の中、5年生・6年生で5名の申し込みは、2団体のみであり、4年生、3年生の選手も目立ち、さらに1名または、2名のみの参加団体もあり少年剣士の減少が厳しく示された感があります。

予選リーグ戦では、成邱剣士会選手6年生4名、5年生1名の5選手全員を含む22名が決勝トーナメント戦に進出しました。

決勝トーナメント戦は、2試合場を使って一戦一戦の熱戦が繰り広げられた。その中で特筆すべきは、参加5選手が優勝から5位まで独占した成邱剣士会の活躍でありました。選手それぞれ個性を持ちながら、相手をよく見て積極的に技を出す姿勢は、素晴らしかった。

また、6位入賞の三森選手（北総中央剣友会）は、4年生で小柄でありながら相面や出ばな面で勝ち進み素晴らしい試合で会った。

準決勝、決勝は、成邱剣士会同士の試合となり、結果、大木選手が優勝を勝ち取りました。

本大会は、第8回となっておりますが、第6回、第7回がコロナウイルス感染症のため中止となりましたので、実際には、6回目の大会でありました。この2年間、安全対策優先のため試合はもちろん通常の稽古も休止せざるを得ない状況が続き、十分な稽古時間を確保することが難しかった少年剣士達の大会でありました。それでも今年は、開催でき本当に良かったと思います。

まだまだ安全対策を要する状況の中、試合は、コロナ下の特別ルールに基づき行われました。

試合会場もできるだけ広い場所という配慮でアリーナを使用して実施しましたので、選手の皆さんはもちろん応援の皆さんも余裕をもって会場に入れたことも良かったと思います。

本大会の表彰は、優勝から第6位を入賞として選出し強化稽古会を実施し、代表選手3名を決定致します。

※前回までの大会は、小学生の部として選手5名で行われていましたが、今年は小学生3名、中学生4名の7名のチーム構成となりました。

10月16日（日）開催の第70回千葉県地区連盟対抗優勝大会には
小学生（3名）・中学生（4名）チーム
高校生（3名）・一般（4名）チームの
2チームが成田剣道連盟代表選手として出場します。
代表選手の皆さんのご活躍を祈念いたします。

第8回成田剣道連盟会長杯争奪剣道選手権大会（小学生の部）結果

【大会結果】 代表候補選手は、第6位までの選手

優勝	選手1	[大木 陽仁	(成邱剣志会)]
準優勝	選手2	[江藤 日葵	(成邱剣志会)]
第3位	選手3	[早瀬 美桜	(成邱剣志会)]
第4位	選手4	[石川 花菜	(成邱剣志会)]
第5位	選手5	[押尾 陽	(成邱剣志会)]
第6位	選手6	[三森 春	(北総中央剣友会)]
敢闘賞		[植木 宥太	(桜台剣友会)]
敢闘賞		[秋葉 奏歩	(若竹スポーツ少年団)]

前回の連盟だより発行以降今号発効までの間に六段、七段に合格された方々の寄稿文をご紹介します。

「功労賞受賞と七段合格」

渡辺 正男

富里市 富里剣友会

この度4月17日の県剣道演武大会において成田剣道連盟の推薦にて、県剣道連盟より功労賞を受賞させていただきました。

加えて5月4日の名古屋審査会で七段合格することができました。いずれも偏に上位の先生方はじめ剣友そしてスポーツ少年団の皆様のご指導とお力添えのお陰と心から感謝して御礼申し上げます。

平成28年7月1日発行の成田剣道連盟だよりに「老骨を竹刀で打たれて」日々精進し、もう一つ上を目指します。と寄稿して6年が過ぎました。



前半の3年間は稽古も順調でしたが4年目からはコロナ発症拡散で稽古ができなくなりました。上位の先生方より「心と技」を学ぶ奥域の深い良書と思います。是非読んで観てください。と剣道教本を贈られました。稽古ができない間は教本で「昇段審査の心構え」について学びました。

その後稽古は再開されましたが、面シールドマスク着用での稽古は違和感があります。

慣れては来ましたが、一日も早く元のような稽古に戻って欲しいと思います。この様な状況下で審査会を迎えました。受審者は誰も同条件であり、出来ることを一生懸命にやり、受審しようと決めました。

そこに運よく上位の先生から、自分たちの稽古会にと声を掛けてもらえて年初から参加させていただき指導を受けました。稽古会では自分流となっていた悪癖を指摘され初心に戻り必死に正しい剣道を学び直しました。

実技も日本剣道形もすべてでありました。通常稽古に加えて、この稽古会で指導を受け悪癖を直し正しい剣道を学べた事が結果につながったのだと思います。

審査当日は朝から大雨でしたが、名古屋は晴れて暑かったです。会場前で会場受付まで約2時間、会場受付し入場して実技迄約2時間待ちました。この待ち時間が緊張した気持ちを解して余裕ある気持ちに変えてくれました。

審査本番では、教本で学び稽古で指導された事を意識して立ち合いました。

特に打つべき機会でないのに相手が打ちに出てきた場合は、相手が出てきたからといってこちらも絶対に技を出さなければいけないという事ではなく、この場合は「さばく」「制して攻め返す」などして対応すれば良し。但し「さばく」と「よける」とは違うよ、と指導されておりました。

実際に本番でもこの状況があり、相手の打ちに惑わされずに対応出来ました。

審査を終えて、発表を待つ間この評価が気になりましたが、発表で合格を知り安堵しました。やはり「稽古は嘘つかない。」「稽古に勝る稽古なし。」を痛感しました。

審査合格後も上位の先生の稽古会に参加し、正しい剣道を学んでおります。これからも功労賞、段位に恥じぬように日々精進して、正しい剣道の普及と後進の指導育成、生涯剣道を目指しますので、変わらぬご指導とお力添え宜しくお願い申し上げます。

七段合格

金澤 富雄 成田市 成邸剣志会

さる令和4年4月30日に京都七段審査会において七段に昇段させて頂くことができました。これも偏にこれまでご指導、また稽古つけてくださった沢山の先生方や仲間のおかげと大変感謝いたしております。

今回の審査に臨むにあたり、他市の七段審査講習会に参加しました。そこで立ち合いの感覚や、自分の課題などをご指摘いただき、普段の稽古で矯正に勤めようと考えました。特に「正しい姿勢」については注意し、素振りのように打突し、頭の位置は一定で遠山の目付を心掛けました。

また立ち上がりからの間のつめ方、気をためる呼吸法、そして打間に入りさらに我慢して技を出すまでの攻防の大切さ、そして受け身にならず、積極的に相手の心を崩し打突する重要性を学びました。

このことを普段の稽古でも常に意識し、稽古してきましたがうまくいかずに正直悩んでいました。そんな時にYouTubeで昔の先人たちの稽古を見ることがあり、ふと気が付くと踏み込みをしていないのに気が付いたのです。

私たちがほぼ毎日行っている素振りには踏み込みがなく、すり足で行っています。そこですり足のみで稽古してみると、勢いだけでは打てず、スピードも出ず、残心も取れずにいました。しかし呼吸法や理法を学び、「攻め勝つ」「気をため我慢する」「先の先」を意識し稽古すると、不思議なことに捨て身になりました。打った打たれたではなく、稽古が楽しくなり相手の気持ちがわかるようになりました。このことで当日の立会は落ち着いて出来ていたように思います。

今回七段をいただき普段道場で子供たちへの指導を通して、真剣に剣道と向き合っている環境に本当に感謝しています。子供たちに正しい剣道を教えるため、基礎基本に立ち返り、心と心が通じあう剣道を目指し、自らも七段に相応しい剣道ができるよう稽古を続け、精進していきますので、ご指導の程よろしくお願い致します。



「六段審査に向けて心掛けたこと」

安部 智 白井市 白井剣友会

お世話になります。白井剣友会の安部です。

5月15日の六段審査に合格することができました。日頃ご指導頂いております先生方、関係各位に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。これからも何卒よろしくお願い致します。

さて5月の審査会ですが、2回目の五十肩（六十肩？）と稽古自粛による稽古不足のため自信はなかったのですが、先生方より「攻め」の大切さをご指導いただき、「攻めて、勝って、打つ」稽古を致しました。しかし私には「攻め勝つ」というのがとても難しく、審査当日は「攻めて、集中して相手をよく見て、打つ」「胸を張り正しい姿勢を取る」「抜けたら相手より早く半歩前に出て残心を取る」の3つを心掛けました。

結果、初太刀は2回とも外した（二人目の方には初太刀で打たれました）ものの、「攻めてからの出ばな面」「相小手面」「拳攻めからの出ばな小手」の3本を決めることができました。私が合格出来たのは、攻めからの技をご評価頂けたからではないかと考えております。日頃ご指導頂いております先生方には本当に感謝です！

また指導者として白井剣道スポーツ少年団の子供たちに「基本の大切さ」を重視しており、それが自分に跳ね返って基本を意識出来たことも良かったと思います。子供たちにも感謝です。



私は地元北九州市の門司港の道場で小学2年生から剣道を始め、大学1年まで剣道を続けましたが、その後息子と一緒に剣道を再開するまで23年間のブランクがあります。再開後は剣道の奥深さや楽しさを改めて知り、今後も剣道を続けられる限り続けていきたいと思っております。

「千葉県地区連盟対抗優勝大会を見てきました。」

広報委員 菅原 信夫

成田剣道連盟の事務局から千葉県地区連盟対抗剣道優勝大会を見に行つて来るようにとの指示がありましたので行つてきました。

この大会は、後述する大会会長の挨拶の話によれば、千葉県で一番大きな剣道大会ということです。

コロナの影響が大きくなってからというもの、もう長いこと大会や練成会の場には立ちいることが出来ませんでした。この大会では地区ごとに割り当てられた数名の入館枠で観戦できることになりました。

10月16日、場所は成田市体育館。早朝7時半にはもう大勢の選手が集まっていました。

8時前にまず監督、選手が入り、それから許可された者のみリボンをつけてそれに続きました。

関係する地区の役員であっても、リボンがなければ大会終了まで外で待機しなければならないという厳しい制限の中で会場内の人数が守られていました。

さて大会会長として千葉県剣道連盟の忍足功会長が挨拶されましたが、それによればこの大会は千葉県で一番大きな剣道の大会ということで、2年間開催されませんでした。70回目の今回は熟慮の末、規模を縮小しての開催ということになったそうです。それでも手元のプログラムによれば選手監督あわせて195名の参加ということになります。

ちなみに参加チームですが、北は野田から南は館山、西は浦安から東は銚子と千葉県を26の地区に分け、各地区から小学生・中学生チームと高校生・一般チームの2チームを構成し、各チームは学校、剣友会を問わず選抜の選手で構成されているようです。

筆者にとっては自宅のある印西から成田体育館まで30分そこそこののでいささかローカルな大会のように思えますが、たまたま会場が成田であるということで、銚子や安房から来る選手たちにとっては遠征と思えるほど遠いところです。

ところで個人的な話で恐縮ですが、大会の前日に、明日は成田剣道連盟の用事で成田の大会を見に行くのだということを家人に話したところ、孫がその大会に出るので車に乗せて行ってくれと言われました。

成田に向かう車の中で、うちの孫が出るくらいだからやっぱりローカルな大会なんだろうなと思っていましたが、会場にて手にしたプログラムを見たら、関係者に配布する分以外は有料というほど立派なプログラムなのでこれは案に相違してなかなかの大会なのだと思い直したという次第です。そして上述の忍足会長の挨拶に続くということ。そういえば孫は県大会に出たことがあったな、とそこで思い出しました。

個人的な話はここまでにして、チームの構成は以下のとおりです。（先鋒、次鋒、五将、中堅、三将、副将、大将、監督の順）

小・中学生チーム 大木陽仁（成邱剣志会）、押尾陽（成邱剣志会）、江藤日葵（成邱剣志会）、酒井真悠（西の原中）、中川皓太（下総みどり学園）、押田瑞希（西の原中）、菅原英汰（木刈中）、佐藤太（北総中央）

高校・一般チーム 山口琉惺（成田高校）、春山佳澄（成田高校）、染谷駿介（成田高校）、森田菜央（順天堂大学）、槻館駿（順天堂大学）、中野雅貴（東邦高校職員）、金澤富雄（成邱剣士会）、河田孝史（桜林館）

試合展開は以下のようでした。

まずは小・中学生の第一試合。松戸地区を相手に、勝ち、勝ち、引き分けと進んできたがその後逆転負け、逆転負けとなり大将の前で2勝一分け2負けとなった。

ここで大将が勝てば本数勝ちか代表戦となるどころ、面を決められ取り返すことなく時間終了。

残念ながら先に進むことはできませんでしたが、見ていた感想としては全員が試合の間中とても良い構えと姿勢を保っていたことです。

試合にありがちな広い足幅や前傾になることなく、見ていて気持ちのいい品位のある剣道でした。

高校・一般の部は君津・木更津を相手に先鋒から攻防を繰り返し、副将が面を2本決めて大将戦で決まるところまで持ち込みました。大将は面を決め、このままいけるかというところまで行きましたが時間ぎりぎりです。小手をとられ引き分け。勝敗は代表戦にもつれ込みました。

双方、大将が代表となり面をはずして一息入れている間の緊張感が伝わってきました。

開始からほどなくして小手を入れられ惜しい結果となりましたが、見ていて勉強になる良い試合でした。

選手の皆さん、監督の先生ならびに関係役員の皆様お疲れさまでした。

追記：いつもは成田地区の中でライバルとして戦っている選手同士が仲良さそうに談笑しているところは良い光景でした。

監督の一言

佐藤 太 先生

成田剣連チームは構えや基本打突などはしっかりしており、決して他の地区に負けていないと思います。他方、試合運びの面では相手が一枚上手だったかなという印象です。「稽古は試合のように、試合は稽古のよう」と言いますが、日頃における実戦を十分意識した稽古の必要性を改めて痛感した次第です。

河田 孝明 先生

応援して下さった連盟の皆様、事務局の方々、ありがとうございました。代表者戦負けという惜負でしたが、選手はとても内容のある試合を展開してくれ、成田連盟のレベルの高さを見せてくれたと思います。選手の皆さんは、来年の大会に向け稽古に励んでいただけたらと思います。ご苦労様でした。

小・中学生チームの選手の一言

菅原 英汰 選手

自分は小学生の頃、一度だけ成田の代表に選ばれるチャンスがありました。ですが、レギュラーに入れず悔しい思いをしました。

今回、レギュラーに入ることが出来てうれしさ半分、ちゃんと役割を果たすことが出来るか心配でした。

アップ前までは副将と伝えられていましたが、急遽、大将と言われ、とても緊張しました。

ですが、自分と同じ中学生が楽しもうと声をかけてくれ、緊張がほぐれました。

残念ながら結果は負けてしまいましたが、楽しんで試合をすることができたので、次、高校生になったら一般の部で出られるように稽古に励み、優勝を目指します。

編集後記

限られた入館枠のリボンをいただき、これまで見る機会のなかった中学在学中の孫の試合を卒業する前に見ることができたことは僥倖でした。

広報委員長 武藤輝久男

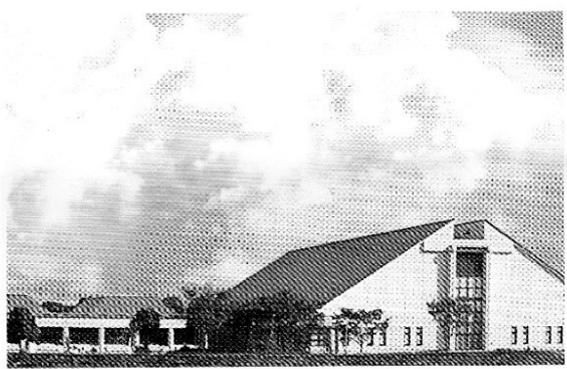
広報委員

鈴木三佳

菅原信夫

第70回 地区連盟 対抗 剣道優勝大会

令和4年10月16日(日)
成田市体育館



主催 一般財団法人 千葉県剣道連盟
後援 一般財団法人 全日本剣道連盟





